

**令和5年度
地域交通サービス実態調査業務・報告書
【概要版】**



2024年3月21日

Aomori Creation Partners

あおもり創生パートナーズ株式会社

1. 概要

- (1) 目的
- (2) 本事業の概念と位置づけ

2. 報告内容

- (1) 現状把握・整理・課題抽出
- (2) 課題解決手法検討
- (3) 議論の枠組み
- (4) 実現までのステップ整理

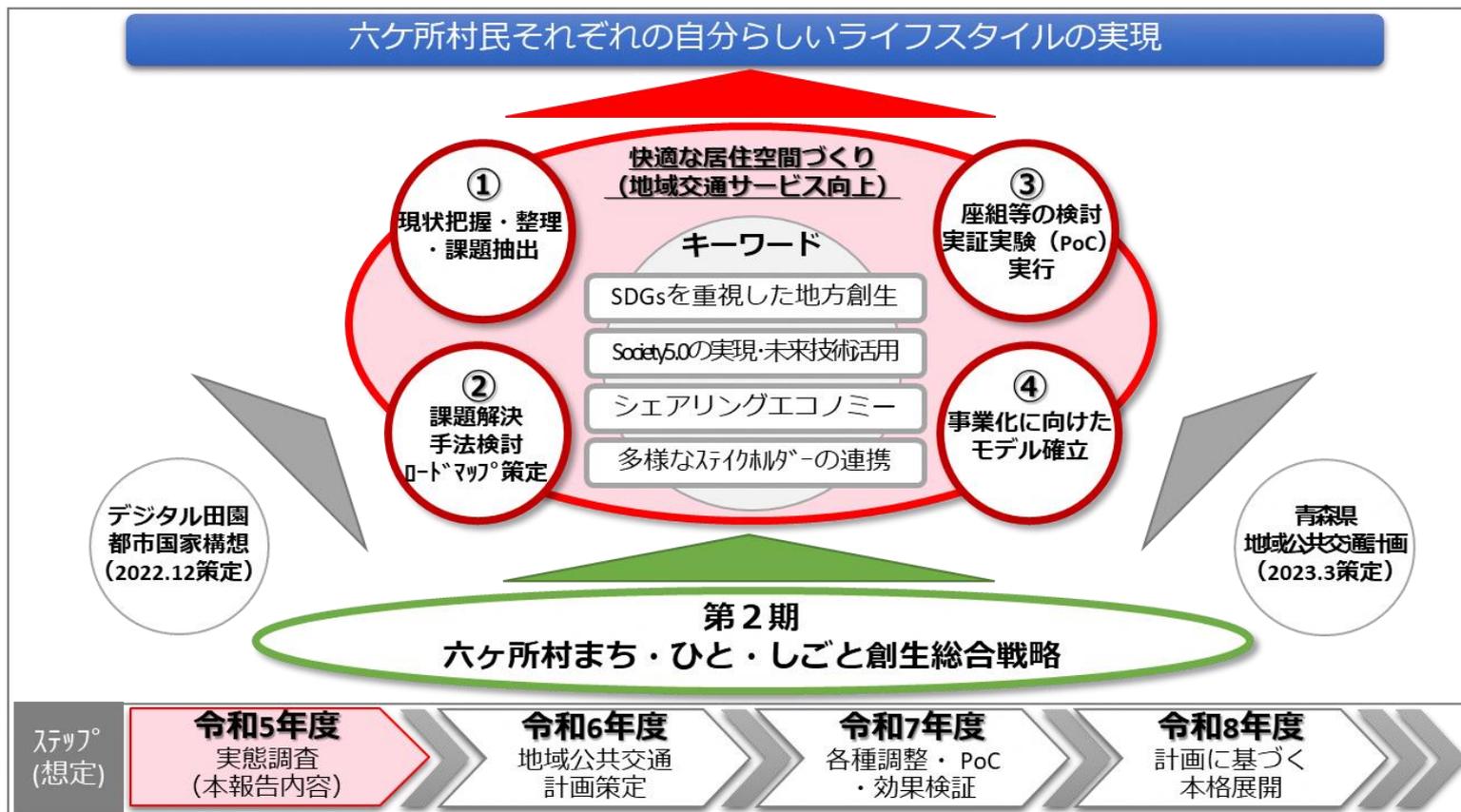
3. 参考

- (1) 公共交通に係る法対応の必要性
- (2) 共創による地域交通形成支援事業（共創モデル実証プロジェクト）
- (3) 共創による地域交通形成支援事業・採択事例

(1) 目的

六ヶ所村では、第2期六ヶ所村まち・ひと・しごと創生総合戦略において、ライフステージ6「快適な居住空間」づくりを掲げ、時代に即し、利用者ニーズを満たす手段により地域内外における移動の円滑化を目指している。本業務は、持続可能であって幅広い年齢層のニーズに対応する地域交通体系の確立を目指し、地域内交通の現状把握・整理、課題抽出及び解決手法の検討等を行うものである。

(2) 本事業の概念と位置づけ



(1) 現状把握・整理・課題抽出

① 村内路線バス、送迎バス等に対する自治体等公的支援状況の調査

村内公共交通の維持のための財政負担額は327百万円（うち村負担額311百万円）となっており、財政負担額は、利用者1人あたりでは、路線バスが475円、村営バスが3,071円、運行一便あたりでは、路線バスが4,060円、村営バスが72,395円となっている。

名称	R4年度財政負担額（円）		年間利用者数 （人）	年間運行本数 （便）	財政負担額/ 1利用者 （円）	財政負担額/ 1 便 （円）
	合計	うち村負担額				
路線バス	33,777,200	18,054,000	71,115	8,320	475	4,060
村営バス	293,198,374	293,198,374	95,467	4,050	3,071	72,395
合計	326,975,574	311,252,374	166,582	12,370	1,963	26,433

※路線バスの利用者については、村外エリアでの乗降を含む各路線全体の利用者数

②六ヶ所村の人口動態等の分析及び村に係る交通の現状分析 B.村に係る交通の現状

定期バス路線

No.	事業者名	路線名等	種別	対象者	運行頻度	備考
1	下北交通	泊線	路線バス	一般	平日：4.5往復 休日：4往復	
2	下北交通	六ヶ所線	路線バス	一般	平日：3往復 休日：2.5往復	
3	十和田観光電鉄	野辺地尾駁線	路線バス	一般	平日：2往復 休日：運休	
4	十和田観光電鉄	北浜線	路線バス	一般	平日：1.5往復 休日：1往復	
5	六ヶ所村旅客自動車 運送事業(協同)	スワニー号	村営バス	一般	土曜	5/6~11/11
6	六ヶ所村旅客自動車 運送事業(協同)	はっぴい号 (買い物バス)	村営バス	高齢者	二又・戸鎖：月曜 倉内・千歳：金曜	
7	六ヶ所地域振興開発	すこやか号 (患者輸送バス)	村営バス	一般	月・火・木・金曜 ※月・木曜日	※二又地区
8	六ヶ所村旅客自動車 運送事業(協同)	入浴バス	村営バス	高齢者	火・木曜	

現状分析

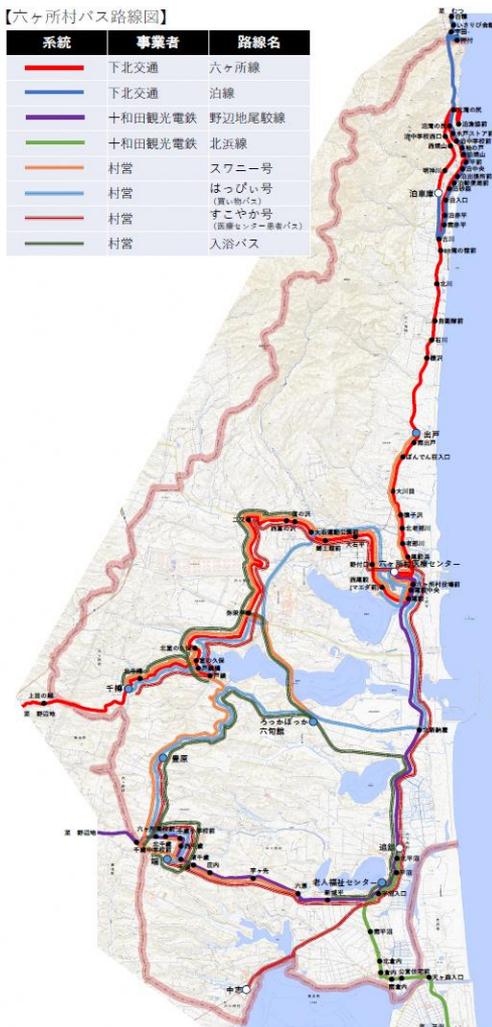
民営路線バスと重複したルートで村営バスが運行

複数種類の村営バスのルートが重複している

村営バスは泊地区がカバーされていない

【六ヶ所村バス路線図】

系統	事業者	路線名
—	下北交通	六ヶ所線
—	下北交通	泊線
—	十和田観光電鉄	野辺地尾駁線
—	十和田観光電鉄	北浜線
—	村営	スワニー号
—	村営	はっぴい号 (買い物バス)
—	村営	すこやか号 (医療センター患者バス)
—	村営	入浴バス



③村の交通モードに係る事業者へのヒアリング

A. ヒアリング実施状況一覧

村内交通に係る主要な事業者へのヒアリング調査を実施した。

(1) 調査目的

六ヶ所村の交通サービスについて、村内で交通事業を行っている主要な事業者より聞き取りを実施し、交通サービス向上に向けた検討の基礎資料とするため。

(2) 実施期間

令和5年7月1日～令和5年9月30日

(3) 調査方法

個別訪問方式

No.	事業者名	種別	本社
1	下北交通	路線バス	むつ市
2	十和田観光電鉄	路線バス	十和田市
3	いやさか自動車	貸切バス・タクシー	六ヶ所村
4	相和物産	貸切バス	六ヶ所村
5	大泉運輸	貸切バス	六ヶ所村
6	六ヶ所地域振興開発	村営バス（受託）	六ヶ所村
7	六ヶ所村社会福祉協議会	村営バス（受託）	六ヶ所村
8	六ヶ所村旅客自動車運送事業（協組）	村営バス（受託）	六ヶ所村
9	縦貫タクシー	タクシー	七戸町
10	泊観光タクシー	タクシー	六ヶ所村
11	十和田タクシー	タクシー	十和田市
12	三八五タクシー	タクシー	八戸市

B. 事業者ヒアリングにおける主な意見

a. 路線バス事業者

厳しい経営環境下においても、地域の重要な足であるバス路線は維持するよう努めていきたいとの考え方は持っている。慢性的な赤字が続いており、加えて、ドライバー不足にも陥っていることから、乗務員の拘束時間の見直し等、様々な工夫をしながら持続可能な運行形態を目指していきたい。デマンド交通については、複数の自治体を跨ぐ長距離路線のため、馴染まないと考える。繁忙期には路線によっては、続行便を運行することや、災害時の避難車両としての活用を考えると、車両の小型化は慎重に検討する必要があるとの声が聞かれた。

b. 貸切バス事業者

売上の8割から9割は、日本原燃及びその関連会社の送迎バス需要に依存している。朝夕を中心に、泊、三沢、野辺地、上北、横浜、むつ方面への数多くのバスが運行されている。ドライバー不足もあり、新たな運行に振り向ける余力は乏しいが、昼間の時間帯であれば、対応できる可能性があるとした事業者も一部見られた。日本原燃の送迎バスについては、日本原燃側でも効率的な運行に向けた改善を逐次実施しており、低乗車率便の運行を見直す等の取組みが見られるとのこと。日本原燃の送迎バスについては、関係者以外との相乗り等は、セキュリティーや、コロナ等への感染症対策の観点から、困難であると思われるとの意見が多かった。

c. タクシー事業者

売上の8割から9割は、日本原燃関係者の送迎輸送で、村の乗合タクシーとは別に、新幹線・七戸十和田駅や三沢空港へ1日複数回往復することが常態化している。また、通勤バスに乗れない交代勤務者等の需要に対応した定期便も請け負っており、その対応だけで手いっぱい他の需要に対応することはできないのが実情。ドライバーの給与体系は、歩合制となっており、長距離客程実入りが大きくなることから、ドライバーとしては、村民の短距離の移動需要に対応しながらないのが実情。ドライバーの確保にも難儀しており、現状の人員を維持し、今受けている法人からの注文に対応していくのが精一杯との声が多く聞かれた。

d. その他

入浴バス、お買い物バスを利用する高齢者が相応におり、生活には必要なインフラである。毎日の高齢者の移動需要に対応できているわけではないことから、近所の住人同士が協力しあって、送迎するケースも見られている。

④行政連絡員へのヒアリング及び住民アンケート調査

A. 行政連絡員ヒアリング

村役場にて抽出した行政連絡員へヒアリング調査を実施した。

(1) 調査目的

六ヶ所村の交通サービスについて、地区の状況を把握している行政連絡員より聞き取りを実施し、交通サービス向上に向けた検討の基礎資料とするため。

(2) 実施期間

令和5年7月1日～令和5年9月30日

(3) 調査方法

個別訪問方式

No.	地区団体名	行政連絡員
1	倉内自治会	田中 幸雄 氏
2	中志自治会	林 清 氏
3	庄内自治会	五十嵐 洋臣 氏
4	千歳自治会	高田 義則 氏
5	千歳平自治会	小泉 國雄 氏
6	平沼町内会	橋本 道郎 氏
7	戸鎖自治会	久保 好美 氏
8	二又自治会	秋戸 薫 氏
9	尾駁町内会	高橋 博美 氏
10	野附自治会	中村 芳美 氏
11	老部川町内会	田村 俊之 氏
12	出戸自治会	小泉 陽大 氏
13	泊町内会	舘 武夫 氏
14	尾駁レイクタウン自治会	戸沼 康弘 氏

B. 行政連絡員ヒアリングにおける主な意見

a. 公共交通について

主に運行頻度の面から使いにくく、ほぼ利用していないとの声が聞かれた、高齢者にとっては、自宅からバス停まで移動することも苦になっており、自宅もしくは近傍から利用できる仕組みがあれば良いのではないかとの声が多かった。

b. タクシーについて

異口同音に「使ったことがない」との回答で、「配車を依頼しても断られる」、「目的地までの距離があり金銭的な負担が大きい」との声が多かった。また、村内の飲酒を伴う会合に出ても帰りの交通手段がなく困ることがある。三沢市内でも会合も同様で、ホテルに宿泊するにしても10,000円以上の出費を覚悟しなければならず、経済的な負担が大きいとの声も聞かれた。

c. 移動以外のQOL向上について

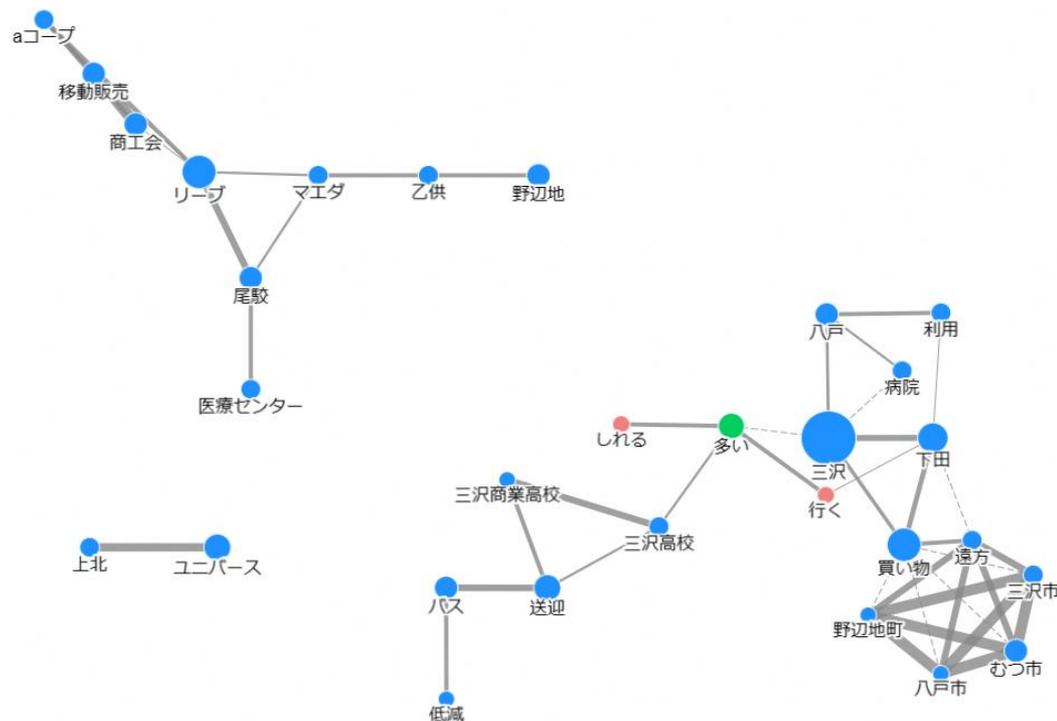
宅配サービスの充実については、自ら商品を選び購入したい高齢者が多く、ニーズになじまないのではないかと意見が聞かれた。また、商工会の移動販売サービスが定期的に来訪する地区においても、家の前まで来てくれるわけではないので、わざわざ外に出て買いに行くのであれば、品揃えが豊富なスーパーまで買い物に行くとの声も聞かれた。

d. その他について

平沼付近での朝夕の交通渋滞に対する改善を要望する声も、複数の地区で聞かれた。核燃料サイクル施設がはじまってから、数十年が経過しているが、未だに三沢・八戸方面への道路状況が貧弱で、国道338号線は狭隘な箇所が多く残っている。週末の買い物は、三沢や八戸に足を延ばす機会も多く、早急にアクセスを改善して欲しいとの声が多かった。

D. ヒアリングで得られた村民の主な行き先（AIテキストマイニング・共起キーワード分析結果）

村民の行き先に係る情報の中から共起されるものを可視化したところ、以下の通りとなった。



共起とは・・・

ヒアリングで得られた情報の一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味。共起回数は、一緒に出現した回数を指す。

出典）ユーザーローカルテキストマイニングツール（<https://wordcloud.userlocal.jp/>）による分析

C. 住民アンケート調査概要

例年、村役場が実施している六ヶ所村まち・ひと・しごと創生総合戦略「住民意向調査」に同封する形式で、「公共交通利用」に関するアンケートを実施した。

(1) 調査目的

六ヶ所村の交通サービスについて、村民の意識を把握し、交通サービス向上に向けた検討の基礎資料とすることを目的に実施した。

(2) 調査基準日

令和5年7月1日

(3) 調査対象・方法

①調査対象

調査対象者は、六ヶ所村に住所を有する18歳以上70歳以下の7,277名（外国人及び介護施設等に居住する者を除く）の中から、無作為に2,000名を抽出した。

その結果、調査対象者の属性は以下の通りである。

◆総数 2,000名（男性1,080名、女性920名）

20歳未満 56名

20代 336名

30代 324名

40代 362名

50代 326名

60歳以上 596名

②調査票及び返信用封筒を調査対象者へ郵送して実施した。

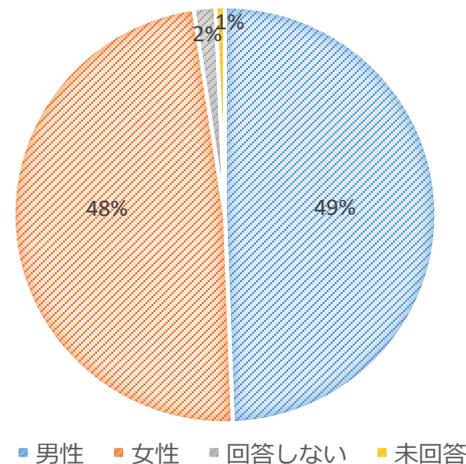
(4) 調査票回収結果

発送数：2,000通 回収数：423通 回収率：21.1%

D. 住民アンケート調査属性

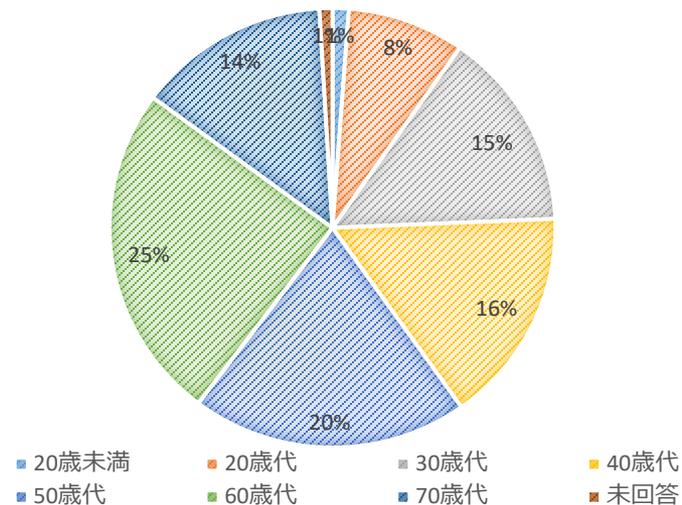
a. 性別

性別	回答数
女性	204
男性	209
回答しない	7
未回答	3
合計	423



b. 年代

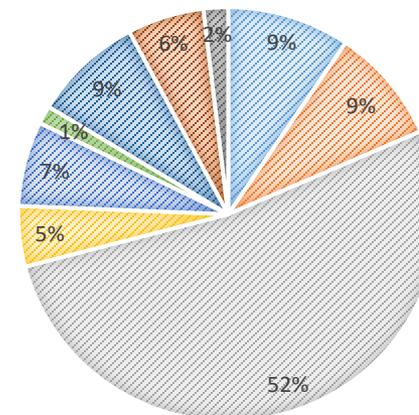
年代	回答数
20歳未満	5
20歳代	36
30歳代	62
40歳代	67
50歳代	85
60歳代	105
70歳代	59
未回答	4
合計	423



D. 住民アンケート調査属性

c. 職業

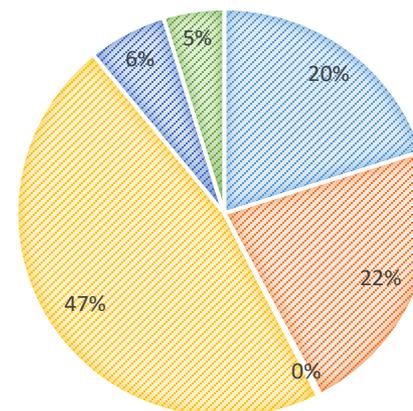
職業	回答数
専業主婦	40
パート	38
会社員・公務員	222
農業	20
自営業	28
学生	6
無職	36
その他	25
未回答	8
合計	423



■ 専業主婦 ■ パート ■ 会社員・公務員
■ 農業 ■ 自営業 ■ 学生
■ 無職 ■ その他 ■ 未回答

d. 家族構成

家族構成	回答数
一人暮らし	85
夫婦のみ	94
2人家族	1
3～5人家族	197
6人以上家族	26
未回答	20
合計	423

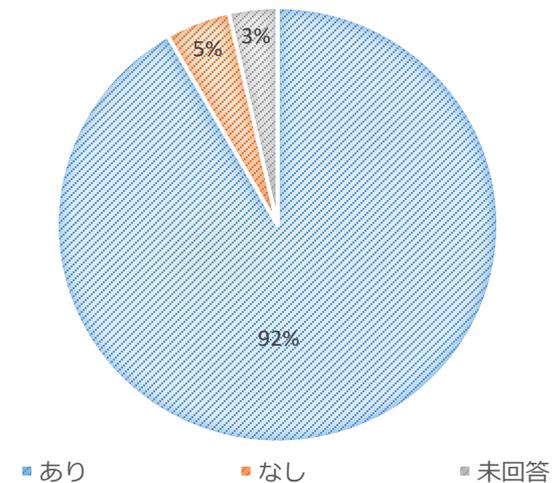


■ 一人暮らし ■ 夫婦のみ ■ 2人家族 ■ 3～5人家族 ■ 6人以上家族 ■ 未回答

D. 住民アンケート調査属性

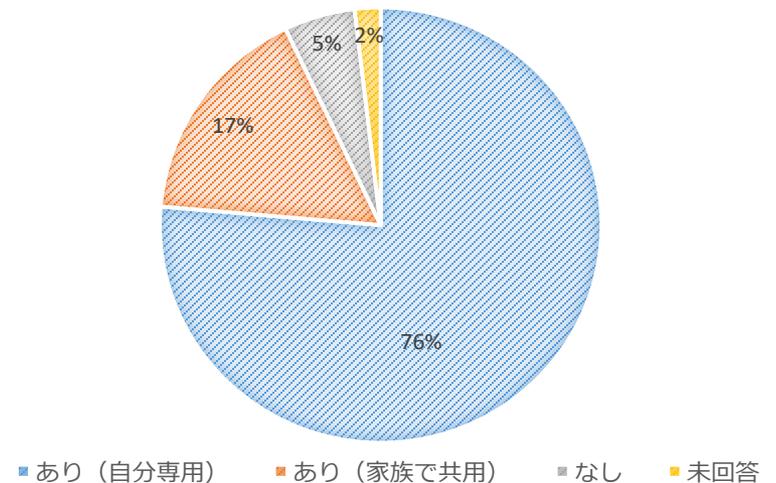
e. 運転免許証保有

免許保有	回答数
あり	388
なし	20
未回答	15
合計	423



f. 車の保有

車の保有	あり
あり（自分専用）	323
あり（家族で共用）	70
なし	22
未回答	8
合計	423



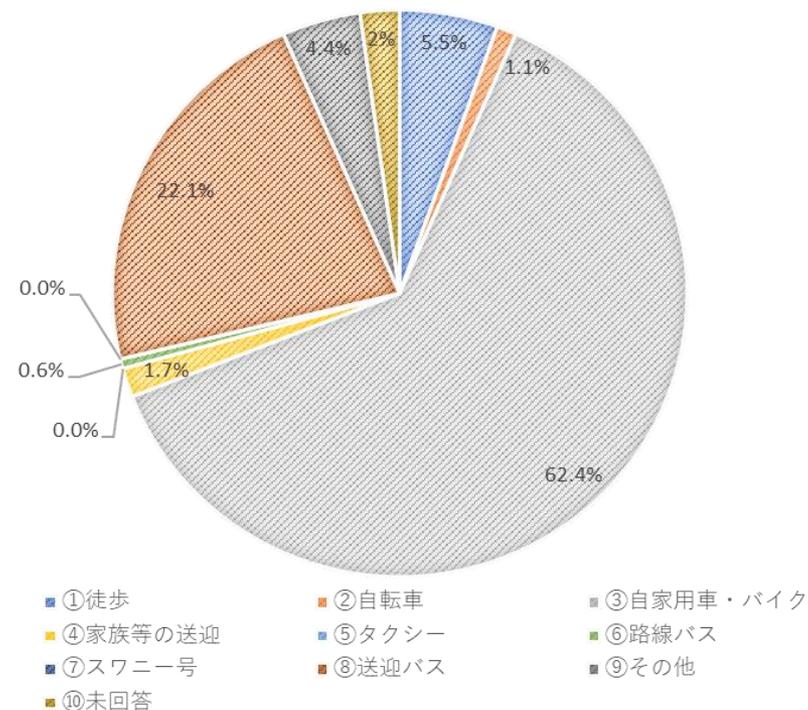
D. 住民アンケート調査属性 g.自治会

自治会名	回答数	割合	自治会名	回答数	割合	自治会名	回答数	割合
会内	2	0.5%	倉内	14	3.3%	尾駮浜	1	0.2%
戸鎖	14	3.3%	端	1	0.2%	尾駮野村	1	0.2%
笹崎	1	0.2%	中志	4	0.9%	浜町内会	5	1.2%
室ノ久保	2	0.5%	内沼	2	0.5%	平沼	22	5.2%
出戸	8	1.9%	南地区	1	0.2%	豊原自治会	1	0.2%
庄内	7	1.7%	二又	3	0.7%	睦栄	2	0.5%
新城平	4	0.9%	泊	40	9.5%	野附	3	0.7%
石川	1	0.2%	泊焼山	1	0.2%	老部川	6	1.4%
千歳	9	2.1%	泊川原	1	0.2%	六原	3	0.7%
千歳平	24	5.7%	尾駮	33	7.8%	未回答	186	44.0%
千樽	3	0.7%	尾駮レイクタウン	18	4.3%	-	-	-
合計							423	100.0%

E. 住民アンケート調査回答

問2 「通勤・通学」に係る移動の状況

回答内容	回答数	割合
①徒歩	10	5.5%
②自転車	2	1.1%
③自家用車・バイク	113	62.4%
④家族等の送迎	3	1.7%
⑤タクシー	0	0.0%
⑥路線バス	1	0.6%
⑦スワニー号	0	0.0%
⑧送迎バス	40	22.1%
⑨その他	8	4.4%
⑩未回答	4	2.2%
合計	181	100.0%

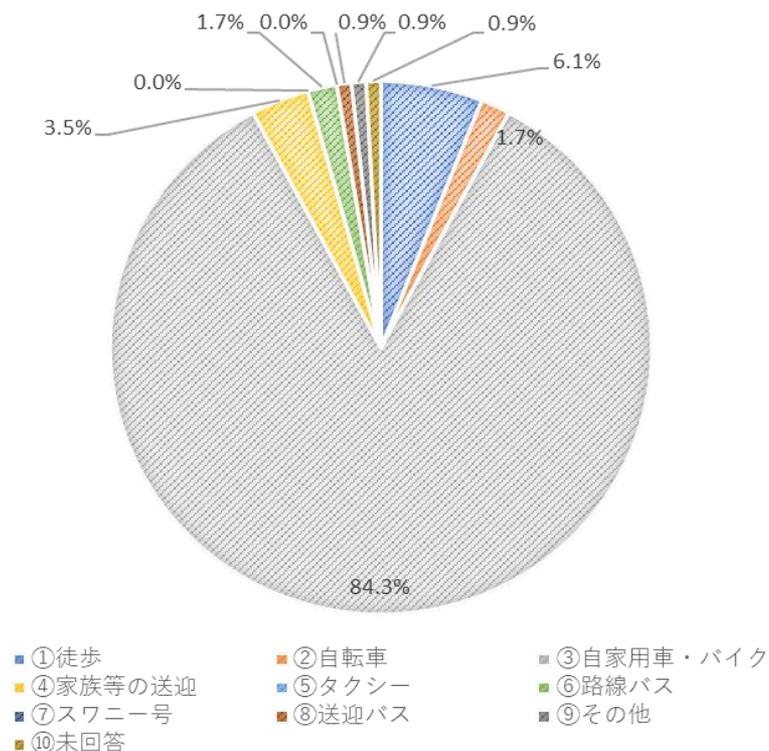


「通勤・通学」については、「自家用車・バイク」が62.4%と最も高く、次いで「送迎バス」が22.1%となっており、この2つで8割以上を占めている。路線バスや、村営バス等の公共交通を利用しているという回答はほとんど見られなかった。

E. 住民アンケート調査回答

問2 「通院」に係る移動の状況

回答内容	回答数	割合
①徒歩	7	6.1%
②自転車	2	1.7%
③自家用車・バイク	97	84.3%
④家族等の送迎	4	3.5%
⑤タクシー	0	0.0%
⑥路線バス	2	1.7%
⑦スワニー号	0	0.0%
⑧送迎バス	1	0.9%
⑨その他	1	0.9%
⑩未回答	1	0.9%
合計	115	100.0%

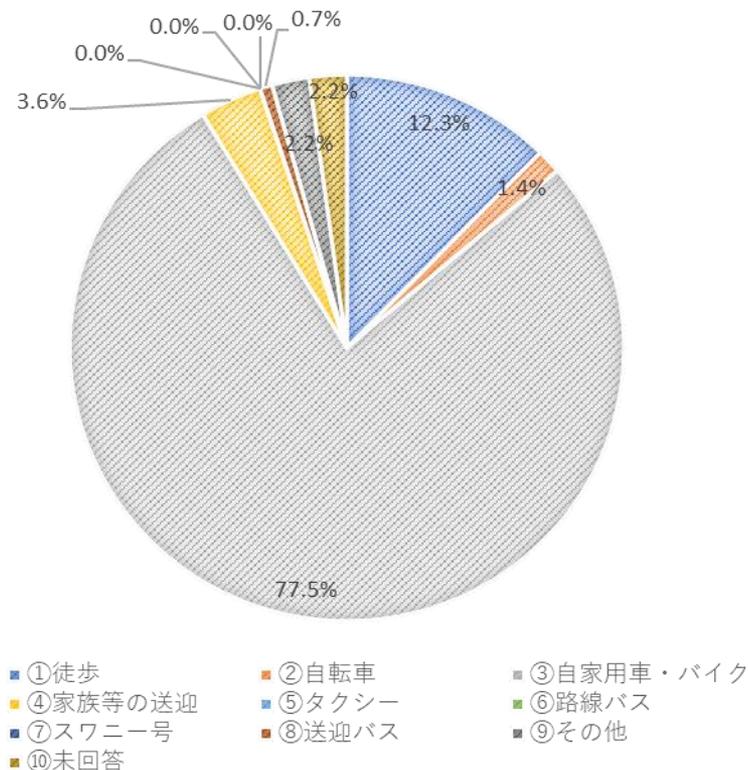


「通院」については、「自家用車・バイク」が84.3%と圧倒的に高く、次に多い「徒歩」との差が大きく開いた。路線バスや、村営バス等の公共交通を利用しているという回答はほとんど見られなかった。

E. 住民アンケート調査回答

問2 「買い物」に係る移動の状況

回答内容	回答数	割合
①徒歩	17	12.3%
②自転車	2	1.4%
③自家用車・バイク	107	77.5%
④家族等の送迎	5	3.6%
⑤タクシー	0	0.0%
⑥路線バス	0	0.0%
⑦スワニー号	0	0.0%
⑧送迎バス	1	0.7%
⑨その他	3	2.2%
⑩未回答	3	2.2%
合計	138	100.0%

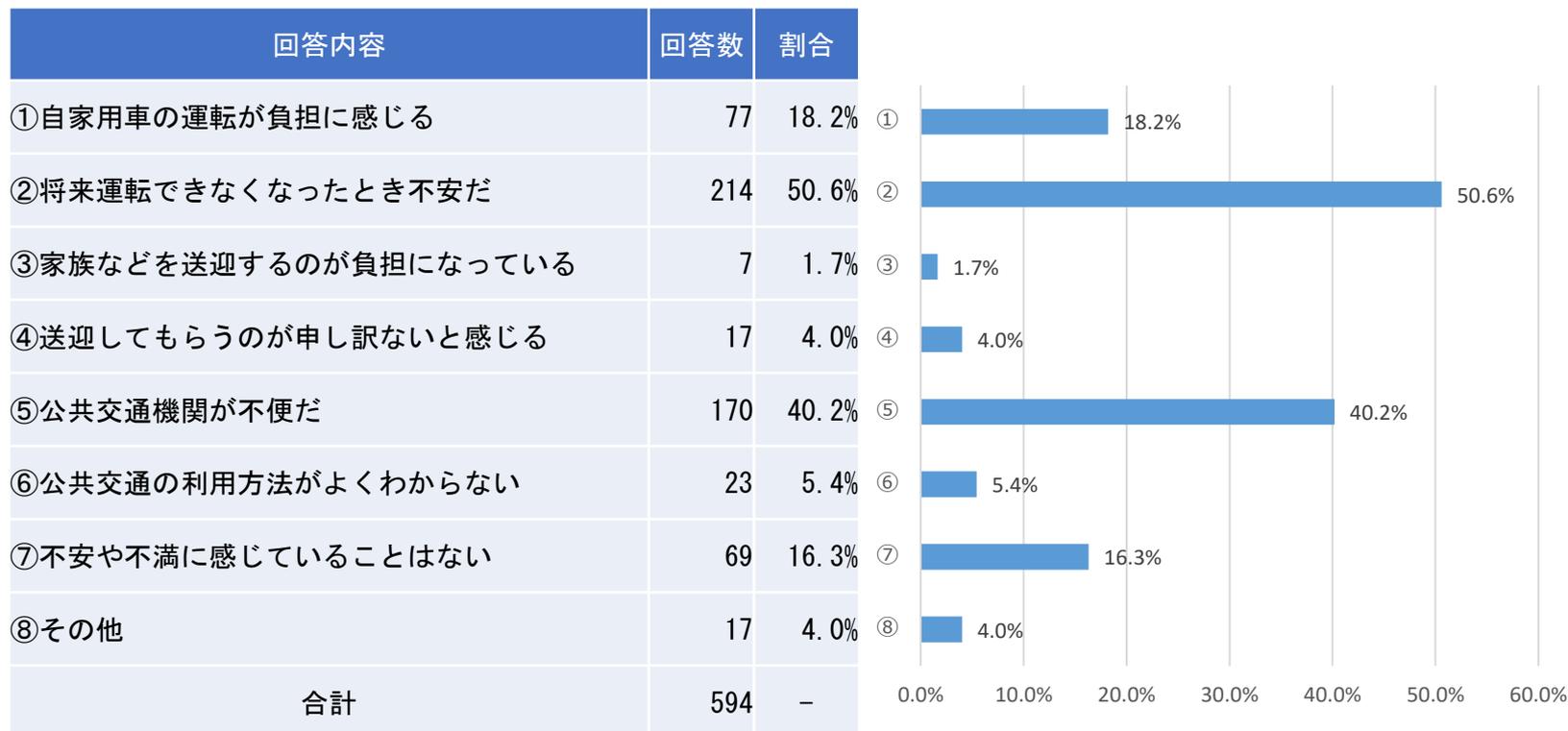


「買い物」については、「自家用車・バイク」が77.5%と圧倒的に高く、次に多い「徒歩」との差が大きく開いた。路線バスや、村営バス等の公共交通を利用しているという回答はほとんど見られなかった。

E. 住民アンケート調査回答

問3 外出の際の移動手段について、不安や不満に感じていること

(複数回答) ※割合 (%) = (回答数 / n) 100 n=423

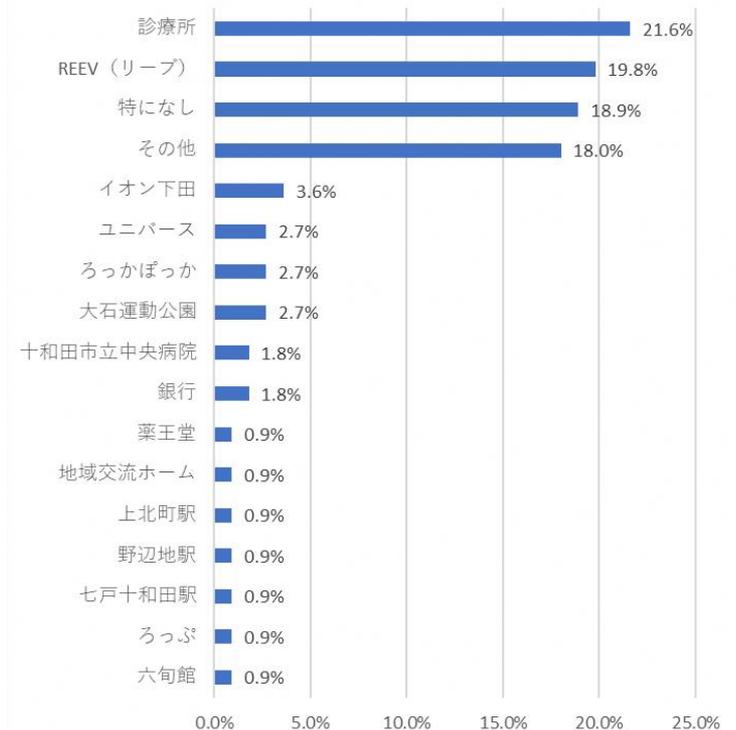


半数の人が「将来運転できなくなったとき不安だ」と回答し、約4割の人が「公共交通機関が不便だ」と回答しており、公共交通のサービス向上に対する村民ニーズがあることが読み取れる。

E. 住民アンケート調査回答

問4 e. 日常利用施設の中で移動に不便を感じている場所

回答内容	回答数	割合
診療所	24	21.6%
REEV（リーブ）・マエダストア	22	19.8%
イオン下田	4	3.6%
大石運動公園	3	2.7%
ろっかぽっか	3	2.7%
ユニバース	3	2.7%
銀行	2	1.8%
十和田市立中央病院	2	1.8%
六旬館	1	0.9%
ろっぷ	1	0.9%
七戸十和田駅	1	0.9%
野辺地駅	1	0.9%
上北町駅	1	0.9%
地域交流ホーム	1	0.9%
薬王堂	1	0.9%
特になし	21	18.9%
その他	20	18.0%
合計	111	100.0%



「診療所」との回答が最も多く、次いで、「REEV（リーブ）・マエダストア」との回答が多かった。患者送迎バスや、買い物バス等が運行されているものの、一定数の村民が不便に感じていることが読み取れる。

E. 住民アンケート調査回答

問5 村内の公共交通（村営バスを含む）が、どのように改善すれば利用しやすくなるか

（複数回答）※割合（%）=（回答数／n）100 n=423

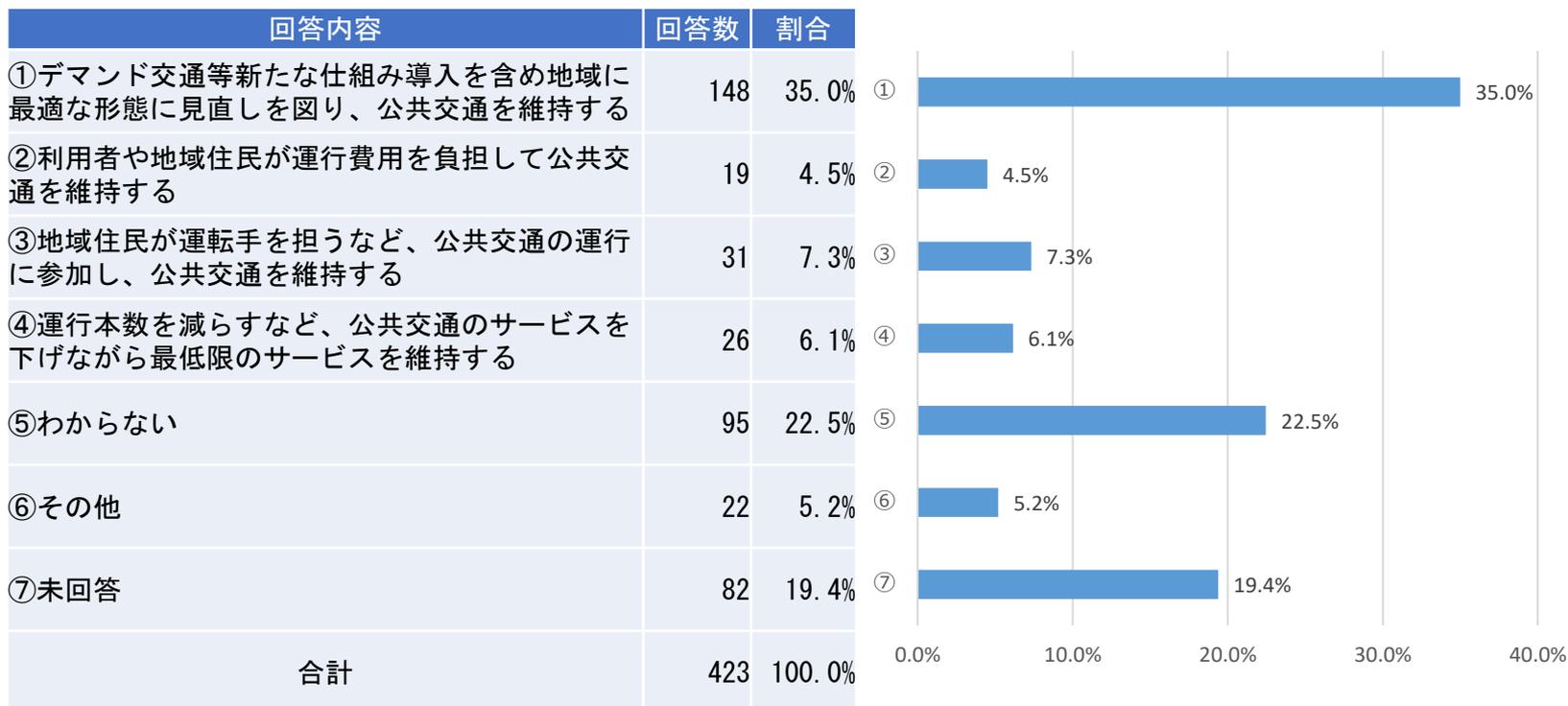


「運行本数を増やす」が最も多く、次いで、「運賃を安くする」、「乗客に応じて無駄のない経路で運行する」の順に多かった。また、「スマホなどでバス運行情報を入手できる」や「運行時間を早くまでまたは遅くまで運行する」という回答も比較的多かった。

E. 住民アンケート調査回答

問6 地域の公共交通の維持について、あなたの考えに最も近いもの

(いずれか一つ選択)



「デマンド交通等新たな仕組み導入を含め地域に最適な形態に見直しを図り、公共交通を維持する」が最も多に多かった。一方で、「わからない」、「未回答」の割合が多く、今後、新たな仕組みの導入を含め様々な検討をする際は、対話を通じて住民一人ひとりの理解を深め、地域全体でコンセンサスを得ていく必要があると考えられる。

⑤バス添乗調査

村内で運行されている路線バスを抽出し、村内バス停毎の乗降状況を調査するとともに乗客へのアンケートを実施した。

A. 調査対象便

a. 下北交通六ヶ所線（泊～野辺地間）

調査対象	調査日	調査便	調査対象	調査日	調査便
平日	9月1日(金)	泊車庫 6:20 → 上目の越 7:34 → 野辺地駅 8:04	土休日	9月2日(土)	泊車庫 7:00 → 上目の越 8:14 → 野辺地駅 8:44

b. 下北交通泊線（泊～むつ間）

調査対象	調査日	調査便	調査対象	調査日	調査便
平日	9月4日(月)	泊車庫 5:45 → 押付 6:02 → むつ 7:18	土休日	9月2日(土)	泊車庫 10:00 → 押付 10:17 → むつ 11:33

c. 十和田観光電鉄野辺地尾駁線（六ヶ所医療センター～野辺地間）

調査対象	調査日	調査便	調査対象	調査日	調査便
平日	9月6日(水)	医療センター 6:57 → 千歳中学校前 7:32 → 野辺地案内所 8:14	-	-	医療センター 千歳中学校前 野辺地案内所 <休日運休につき調査対象便なし>

d. 十和田観光電鉄北浜線（追館～三沢間）

調査対象	調査日	調査便	調査対象	調査日	調査便
平日	9月5日(火)	追館 6:47 → 天ヶ森入口 6:59 → 三沢案内所 7:49	土休日	9月3日(日)	追館 6:57 → 天ヶ森入口 7:09 → 三沢案内所 7:59
平日	9月5日(火)	追館 9:50 → 天ヶ森入口 10:02 → 市立病院 10:59			

B. 乗車状況（その1）

a. 下北交通六ヶ所線（泊～野辺地間）

事業者名		下北交通		下北交通	
路線名		六ヶ所線		六ヶ所線	
調査日		2023年9月1日		2023年9月2日	
曜日		(金)		(土)	
始発出発時刻		6時20分		7時00分	
始発停留所		泊車庫		泊車庫	
終着停留所		野辺地駅		野辺地駅	
	停留所名	乗車	降車	乗車	降車
六ヶ所村	泊入口			1	
	北老部川	2		1	
	尾駸浜		1		1
	六ヶ所医療センター		1		
	西尾駸（マエダ前）	3		3	
	大石平		1		
	二又			1	
	弥栄平	1		9	
	有戸	1			
	野辺地金沢		1		3
野辺地町	野辺地中央	1		1	1
	下町				1
	野辺地病院前		2		3
	野辺地駅		2		7
	路線全体	8	8	16	16
六ヶ所村内		6	3	15	1

b. 下北交通泊線（泊～むつ間）

事業者名		下北交通		下北交通		
路線名		泊線		泊線		
調査日		2023年9月2日		2023年9月4日		
曜日		(土)		(月)		
始発出発時刻		10時00分		5時45分		
始発停留所		泊車庫		泊車庫		
終着停留所		むつ		むつ		
	停留所名	乗車	降車	乗車	降車	
六ヶ所村	泊消防屯所前				2	
	泊郵便局前	2				
	泊出張所前	2				
	泊中央	2	1			
	平前		1			
	泊焼山					
	袖の戸		1	1		
	泊中学校前		1	1		
	水戸ストア前		1			
	泊滝の尻		1			
	東通村	いさり火会館前				1
		南小田野沢	1			
		小田野沢	1			
北向		1				
砂子又		2		2		
野花菖蒲ノ里			4	1		
東通村庁舎前					1	
むつ		1		7		
路線全体		11	11	8	8	
六ヶ所村内		6	6	4	0	

B. 乗車状況（その2）

c. 十和田観光電鉄野辺地尾駱線（六ヶ所医療センター～野辺地間）

事業者名		十和田観光電鉄	
路線名		野辺地尾駱線	
調査日		2023年9月6日	
曜日		(水)	
始発出発時刻		6時57分	
始発停留所		六ヶ所医療センター	
終着停留所		野辺地案内所	
	停留所名	乗車	降車
六ヶ所村	千歳小学校前	1	
	鳥井平	1	
野辺地町	青少年ホーム前	2	
	病院前		1
	野辺地駅		2
	路線全体	4	4
六ヶ所村内		1	0

d. 十和田観光電鉄北浜線（追館～三沢間）

事業者名		十和田観光電鉄		十和田観光電鉄		十和田観光電鉄	
路線名		北浜線		北浜線		北浜線	
調査日		2023年9月3日		2023年9月5日		2023年9月5日	
曜日		(日)		(火)		(火)	
始発出発時刻		6時57分		6時47分		9時50分	
始発停留所		追館		追館		追館	
終着停留所		三沢案内所		三沢案内所		市立病院	
	停留所名	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
六ヶ所村	追館	1					
	北平沼			1			
	平沼		1	2			
	平沼入口			6			
	倉内					1	
	南倉内			2			
	公営住宅前			1			
三沢市	越下						1
	富崎			1			
	朝日			1			
	織笠	1					
	西浜三沢						1
	岡三沢市営住宅前			1			
	岡三沢		1	2			
	三沢中央						1
	市役所前						2
	上下水道庁舎前					7	
三沢駅			1	10			
晴ヶ丘					1		
路線全体		2	2	18	18	3	3
六ヶ所村内		1	1	12	0	1	0

c. 乗客アンケート

a. 利用しているバス路線に不便を感じているか 【全体】

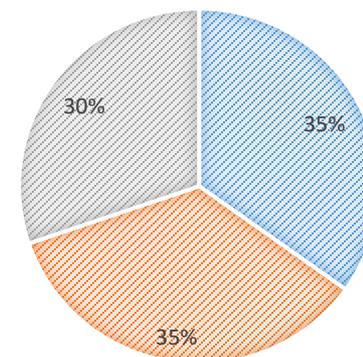
回答	回答数	割合
不便を感じていることがある	15	34.9%
不便を感じていることがない	15	34.9%
未回答	13	30.2%
合計	43	100.0%

【下北交通六ヶ所線】

回答	回答数	割合
不便を感じていることがある	8	44.4%
不便を感じていることがない	4	22.2%
未回答	6	33.3%
合計	18	100.0%

【十和田観光電鉄野辺地尾駁線】

回答	回答数	割合
不便を感じていることがある	0	0.0%
不便を感じていることがない	1	100.0%
未回答	0	0.0%
合計	1	100.0%



■ 不便を感じていることがある ■ 不便を感じていることがない ■ 未回答

【下北交通泊線】

回答	回答数	割合
不便を感じていることがある	4	40.0%
不便を感じていることがない	0	0.0%
未回答	6	60.0%
合計	10	100.0%

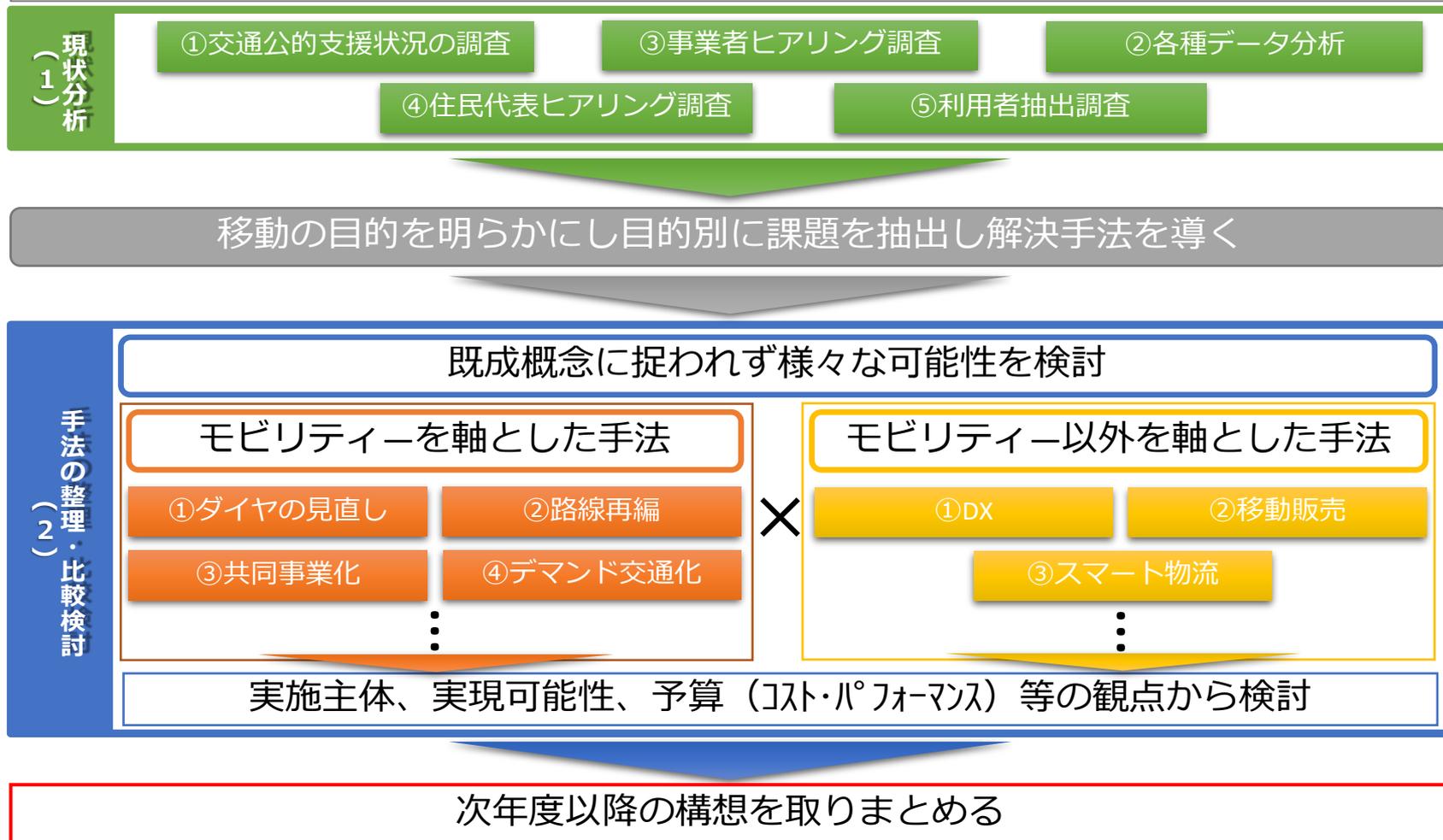
【十和田観光電鉄北浜線】

回答	回答数	割合
不便を感じていることがある	3	20.0%
不便を感じていることがない	11	73.3%
未回答	1	6.7%
合計	15	100.0%

(2) 課題解決手法検討

① 手法の整理、比較検討、構想取りまとめに向けた考え方

現状分析を踏まえ課題を抽出し、本事業の目的達成には「真にどの手法が最適か」を検討する。



(2) 課題解決手法検討

② 調査結果を踏まえたポイントと方向性

多くの村民が普段公共交通を利用していない

タクシーが村民の移動手段として機能していないが一部事業者は状況の改善に向けた意欲がある

路線バス、村営バスの重複路線が多く調整の必要がある

新しい仕組みの活用を含めた公共交通の維持を求める村民の声がある一方でわからないとの声も見られる

調査結果を踏まえると、今後、地域交通サービス向上への取組みを実現するためには、拙速に新たな取り組みの実現を目指して行動する前に、村民一人一人の公共交通に対する関心・理解を高めながら、全ステイクホルダーが、一つ一つ課題を解決しながら、コンセンサスを図っていく必要がある。

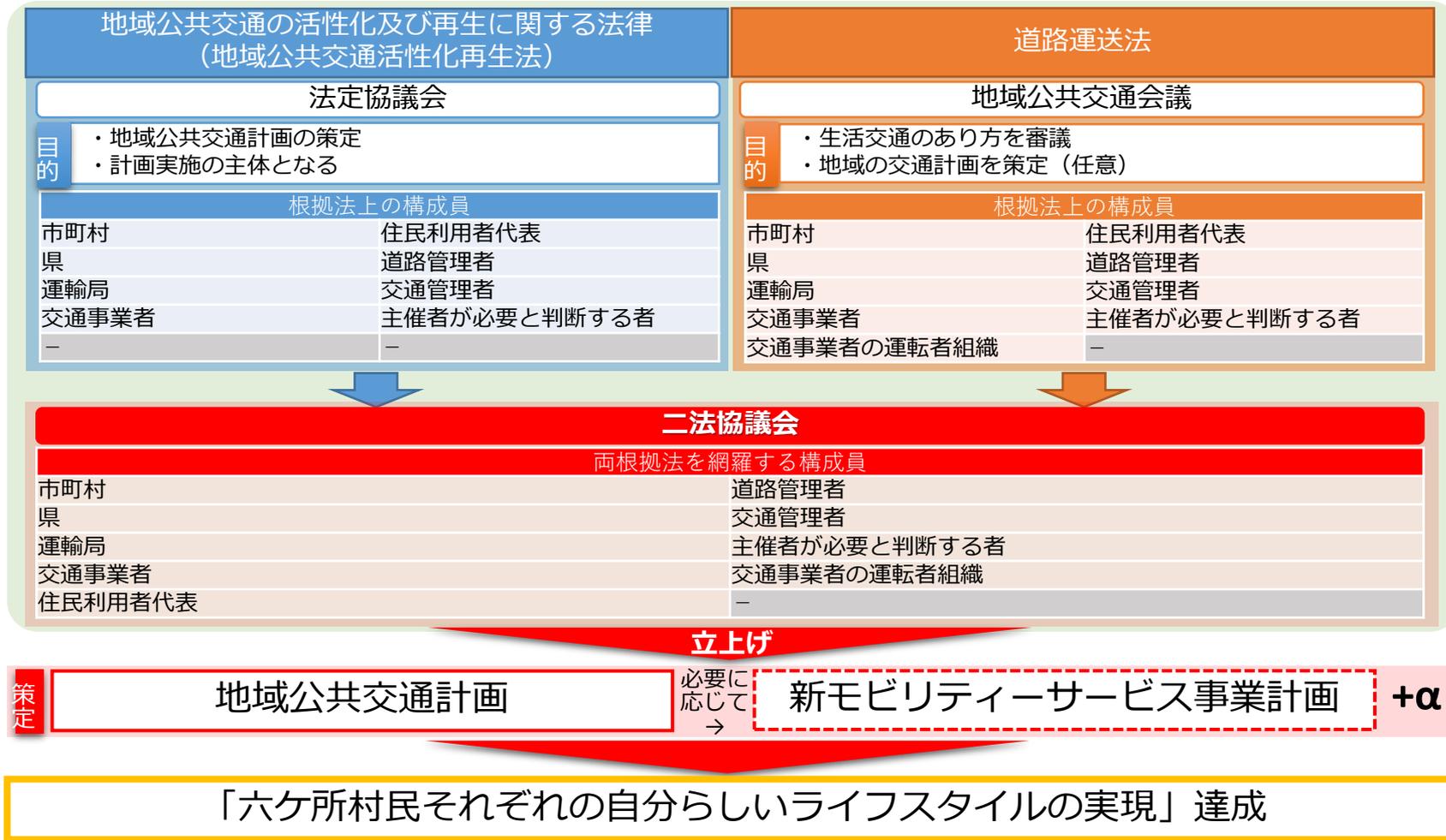
方向性

法令等に基づきステイクホルダーが議論する場の設置

地域の公共交通のマスタープランである「地域公共交通計画」策定

(3) 議論の枠組み

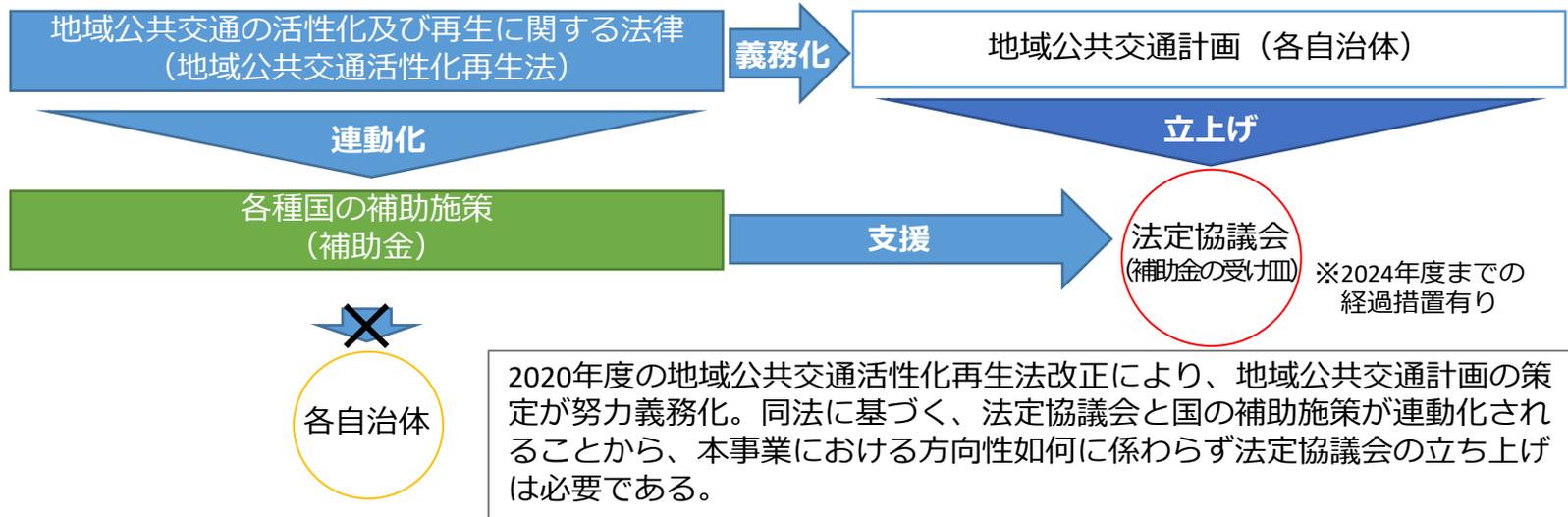
法律上の特例措置を受けられる「二法協議会」の設置した上で議論を深め、まずは、様々な取り組みの前程となる、村内の公共交通のマスタープランである「地域公共交通計画」の策定を行い、村民のQOL向上を目指していく。



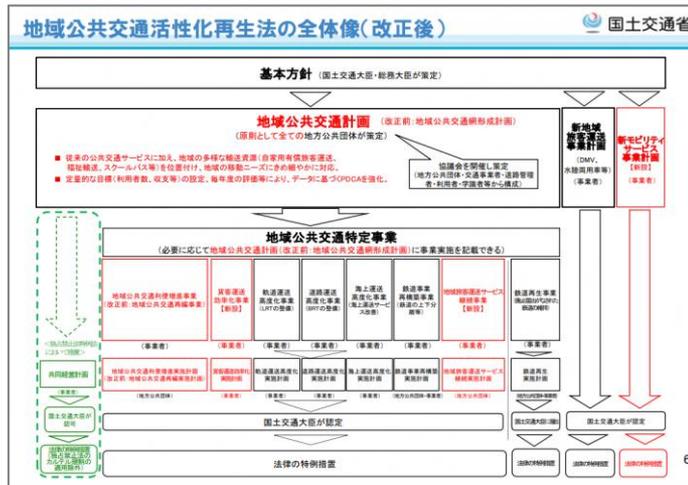
(4) 実現までのステップ整理

ステップ	取組み内容
<p>2024年度 地域交通計画策定 実施計画策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定協議会の枠組みを活用した議論開始 ・ 住民座談会の実施（合計2回） ・ 地域公共交通計画（素案）完成 ・ 地域公共交通計画パブリックコメント募集 ・ 新たな仕組み導入に係る実施計画策定 ・ 新たな仕組み等導入に係る実施計画策定 ・ 地域公共交通計画及び本事業実施計画案承認
<p>2025年度 効果検証 PoC 効果検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存公共交通の調整等の実施 ・ 実証実験（PoC）による課題抽出② ・ 効果検証、ブラッシュアップ ・ 実証実験（PoC）による課題抽出② ・ 事業性判断
<p>2026年度 本格展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定協議会で議論した内容の本格展開 ・ PDCA

(1) 公共交通に係る法対応の必要性



【参考】地域公共交通活性化再生法の全体像



(1) 共創による地域交通形成支援事業（共創モデル実証プロジェクト）

内容	上限	補助率	補助対象事業内容
共創モデル実証運行事業	1億円	2/3	<p><関係者の連携類型イメージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①官民共創(交通事業者等と地方公共団体の連携) ②事業者間共創(複数の交通事業者等の連携) ③他分野共創(交通事業者等と他分野の垣根を超えた連携) <p><事業のイメージ例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICカードや交通輸送データの収集による効率的なデマンド交通の運行 ・交通・人流データのオープン化による立地適正化計画への活用 ・広域的な自治体連携によるMaaS実装 ・路線バス・鉄道・船舶など交通インフラの一体型サブスクモデルの構築 ・コミュニティ交通におけるAIオンデマンドの導入や貨客混載の実施 ・地域の暮らしサービスと交通サービスを組合わせたサブスクモデル構築 ・タクシー配車空き時間帯を活用した輸送需要のマッチングシステム構築 等
人材育成事業	3千万円	定額	<p><事業のイメージ例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地の出前講座への講師派遣や現地スタディ・ワークショップ等の開催 ・地元経営者と、マーケティングやDX経験を有する人材とのマッチング ・MaaSや地方創生に係る地元交通事業者へのアドバイス 等

(2) 共創による地域交通形成支援事業・採択事例

	分野	自治体名	プラットフォーム名称	運送サービス提供主体	共創パートナー
1	交通×農業・医療	北海道帯広市	十勝圏公共交通共創プラットフォーム	十勝バス(バス事業)	なまら十勝野(野菜卸業) 十勝ヘルスケアクリニック(医療)
2	交通×買い物	北海道江差町	江差町地域公共交通活性化協議会	江差町 ※桧山ハイヤー(タクシー事業)、函館バスに運行委託	サツドラHD(ドラッグストア)
3	交通×買い物・エネルギー	北海道神恵内村	神恵内村たつ姫共創プラットフォーム	神恵内村	INFLUX.INC(エネルギー事業) 富士通Japan(ICT事業)
4	交通×買い物・子育て・福祉	秋田県大館市	大館版mobiプロジェクト推進協議会	秋北タクシー	伊徳(スーパーマーケット事業) イオンスーパーセンター大館店(スーパーマーケット事業) みながく(子育て事業) 大館市社会福祉協議会(福祉事業)
5	交通×買い物	福島県石川町	石川町交通不便地域解消プロジェクト	石川町 ※福島交通(バス事業)に運行委託	アクティブワン(スーパーマーケット事業)
6	交通×介護	群馬県前橋市	前橋市地域交通共創協議会	前橋地区タクシー協議会(加盟8社)	全国介護事業者連盟群馬県支部
7	交通×まちづくり	埼玉県さいたま市	さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム 美園地区プロジェクトチーム	つばめタクシー	美園タウンマネジメント(まちづくり事業) さいたま市
8	交通×買い物・医療・スポーツ・賑わい活性化	神奈川県川崎市	かわさき移動で暮らしを広げる協議会	神奈川県タクシー協会川崎支部	双日(総合商社)
9	交通×教育	富山県朝日町	朝日町MaaS実証実験推進協議会	朝日町(運行は住民が担う) ※道路運送法上の許可・登録を要しない輸送	あさひふるさと創造社(習い事事業) 黒東自動車商会(タクシー事業) 博報堂(広告代理店)
10	交通×農業・買い物	兵庫県神戸市	既存のバス路線を活用した貨客混載事業	神姫ゾーンバス	兵庫六甲農業協同組合 神戸市 エキソアレ西神中央(ショッピングモール事業) 北摂コミュニティ開発センター(ショッピングセンター運営事業)
11	交通×買い物・まちづくり	兵庫県三田市	三田市モビリティサービス実証推進協議会	三田市 ※まちづくり協議会に運行委託	アシックス(スポーツ用品メーカー) 神姫バス 神戸電鉄
12	交通×まちづくり	島根県大田市	井田いきいきタクシー活性化プラットフォーム	井田いきいきタクシー運行協議会 ※自家用有償旅客運送の運行主体	井田屋(企業組合) 石見交通(バス事業)
13	交通×買い物	広島県熊野町	熊野町地域交通共創事業実行委員会	朝日交通(バス事業)	フジ・リテイリング(スーパーマーケット事業)
14	交通×まちづくり・エネルギー	香川県三豊市	暮らしの交通株式会社	西讃観光 詫間交通 さくらタクシー(タクシー事業)	瀬戸内ワークス(観光まちづくり事業) 自然電力(エネルギー事業)
15	交通×観光・福祉・農業	長崎県雲仙市	地域をつなぐ「チョイソコラんぜん」共創プロジェクト実証実験協議会	雲仙市	長崎トヨペット(車両販売・MaaS事業)